

URL <http://aomori.lin.gr.jp>

# 畜産協会だより

Vol.16

発行  
社団法人 青森県畜産協会

## 新年のご挨拶

社団法人青森県畜産協会

会長 渡部 毅

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、三月に発生した東日本大震災による大津波の被害、それに続く原子力発電所の事故などにより、多くの尊い命と貴重な財産が失われたことに対し、改めて哀悼の意を表し、お見舞い申し上げます。また、現在も大勢の人が古里に帰れず、本来の生産活動に携われないまま被災者として不自由な生活を強いられていることに歯がゆい思いを強くしているところであり、一刻も早い復旧を心より願っております。

畜産に関しては、青森県について言えば大津波による直接的な被害は余りなかったものの原発事故による畜産物に対する風評被害は大きく、枝肉価格の下落など現在も続いているところです。

これらに関しては、協会としても畜産農家経営の喫緊の対策を求めてきたところであり、国や県及び関係機関の協力を得て対応して参りました。肉用牛肥育経営の資金繰り対策としては、肉用牛肥育経営緊急支援事業（5万円事業）で13億円余りを肥育農家へ支援してきたのを始め、東京電力に対する風評被害額の畜産分の取りまとめなど緊急対策として業務を進めて参りました。また、通常業務の拡大として新マル緊事業による肥育農家への補てん金の交付については、平成23年7月販売牛分から毎月交付する事務に取り組んでおり、新年明けの現在も引き続き努めているところです。

新年度を迎え、農業とりわけ畜産を取り巻く状況は一段と厳しさを増すものと考えられ、昨年政府が参加表明した環太平洋経済連携協定（TPP）については、未だに詳しい内容について説明が無いままです。関税の例外項目など認める状況にはないと言う厳しい新聞報道等もあり、参加は認められないものだと考えております。

当協会の運営につきましても、年々厳しさを増しており、経費の節減に努め農家の経営の安定と青森県の畜産の発展に向け、職員一丸となり取り組んで参りますので、皆様様の御協力、御支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

## 初競り開催 まづまづのスタート

1月13日、七戸町の県家畜市場にて平成24年の初競りの式典が行われた。冒頭、県畜産農業協同組合連合会の山内会長より挨拶があり、昨年の大震災における風評被害への対応、また今年10月に開催される長崎全共への応援メッセージ等が述べられた。また、三村県知事も二年ぶりに出席し、景気を盛り上げるよう購買者へ高値取引を呼びかけた。乾杯の発生は当協会の渡部会長よりリンゴジュースで行われ、続いて会場の購買者や生産者へ向けてベコ餅がばらまかれた。

初競りの結果は、前年比2万数千円の安値であったが、市場関係者によると他県市場より良好と評価。春までこの傾向が続くことを期待している。

## 生産者補てん金 交付状況

### ○肉用子牛生産者補給金交付状況

品種区分		黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種	乳用種	乳用交雑種
保証基準価格		310,000円	285,000円	204,000円	116,000円	181,000円
合理化目標価格		268,000円	247,000円	142,000円	83,000円	138,000円
平成23年度 第3四半期 (10月～12月)	平均売買価格	397,900円	307,400円	127,300円	89,200円	227,300円
	交付単価	—	—	75,230円	26,800円	—
	交付額	—	—	2,482,590円	13,158,800円	—

### ○肉用牛繁殖経営支援事業支援交付金交付状況

品種区分		黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種
発動基準		380,000円	350,000円	250,000円
保証基準価格		310,000円	285,000円	204,000円
平成23年度 第3四半期 (10月～12月)	平均売買価格	397,900円	307,400円	127,300円
	交付単価	—	31,900円	34,500円
	交付額	—	0円	1,138,500円

### ○養豚経営安定対策事業 補てん金交付状況

	保証基準価格	枝肉平均価格	補てん金単価	補てん金交付額
平成23年度 第1～3四半期 (4月～12月)	460円/kg	円/kg	円/頭	円

### ○肉用牛肥育経営安定特別対策事業（新マルキン事業）の交付状況

	肉専用種	交雑種	乳用種	交付日
平成23年度10月期	84,800円	153,600円	91,000円	12月21日
平成23年度11月期	62,300円	170,600円	97,700円	1月23日

※平成23年度12月期補填金は2月下旬交付予定です。

## 肉用牛肥育経営緊急支援事業 緊急支援金の返還請求について

### 1 緊急支援金交付実績

平成23年3月11日の福島第一、第二原子力発電所事故の影響により、枝肉価格の低下から資金繰りが悪化し経営の継続が困難となった者に対し、独立行政法人農畜産業振興機構の補助により、肉用牛肥育経営に対する「つなぎ融資資金」として緊急支援金を平成23年10月7日付けで、78事業対象者へ1,324,800千円を交付しました。

### 2 緊急支援金相当額の返還請求及び返還

四半期ごとに販売異動及び請求月齢の超過（肉専用種：満40か月齢、交雑種：満38か月齢、乳用種：満32か月齢を超えた場合）があった事業対象牛に対し請求を行う。

#### ① 第1回返還請求について

平成23年8～12月期における販売異動及び請求月齢の超過があった個体に対し、平成24年2月末日までに返還請求（返還計画を添付）を実施する。

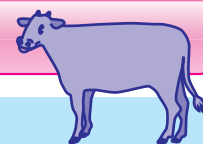
#### ② 第1回返還請求に係る返還金の返還及び返還計画の提出※について

平成24年3月末日までを支払期限とする。

※但し、第1回返還請求に係る返還金を全額返還する場合は、返還計画の提出は不要であり、支払期限までに返還が困難な場合に限り、返還計画を平成24年3月末日までに提出することとなる。

**お問い合わせ先 経営支援課 TEL：017-723-2775**

# 青森県家畜市場成績（七戸）



## 子牛 市場成績表 【開催日 23年12月9日】

### 1、販売価格 税込み 【子牛】

品 種	性	今 回 分						前 回 分			Kg単価 増減	
		頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均日令	平均体重	Kg単価	頭数	平均価格		Kg単価
黒毛和種	雄											
	去	312	715,050	77,700	497,794	294	307	1,621	302	452,265	1,460	161
	雌	224	868,350	197,400	380,911	303	279	1,365	223	379,182	1,305	60
	【小計】	536	868,350	77,700	448,947	298	295	1,520	525	421,222	1,396	124
和牛間交雑	雄											
	去	1	158,550	158,550	158,550	281	287	552				
	雌											
	【小計】	1	158,550	158,550	158,550	281	287	552				
日本短角種	雄											
	去	1	51,450	51,450	51,450	285	247	208				
	雌	1	58,800	58,800	58,800	280	297	198				
	【小計】	2	58,800	51,450	55,125	283	272	203				

・黒毛和種の取引頭数は536頭で、前回より去勢10頭増、雌1頭増、全体で11頭増となった。  
 ・黒毛和種の平均価格は449千円で、前回より去勢46千円高、雌2千高、全体で28千円高となった。

### 2、主な種雄牛の販売価格 税込み 【子牛】

名 号	去 勢					雌					合 計				
	頭数	平均価格	体重	単価	日令	頭数	平均価格	体重	単価	日令	頭数	平均価格	単価	日令	割合(%)
第1花国	168	511,181	308	1,661	295	111	375,105	280	1,341	306	279	457,044	1,541	300	51.4
北平安	23	474,372	304	1,562	297	13	360,554	275	1,311	311	36	433,271	1,477	302	6.6
第2花国	13	484,938	307	1,580	288	6	335,650	253	1,328	290	19	437,795	1,511	289	3.5
第2平茂勝	12	468,125	302	1,552	288	12	372,488	294	1,266	315	24	420,306	1,411	301	4.4
安茂勝	17	500,171	314	1,593	291	16	385,416	287	1,345	299	33	444,532	1,478	295	6.1
茂勝栄	9	556,033	320	1,739	288	8	327,863	259	1,268	294	17	448,659	1,542	291	3.1
総合計	315	496,033	306	1,619	294	228	380,772	278	1,369	302	543	447,636	1,520	297	100.0

・最も取引頭数の多かった種雄牛は「第一花国」で51.4%、次いで「北平安」6.6%となった。  
 ・第一花国の平均価格は457千円で、前回に比べ27千円高となった。単価は1,541円で前回より118円高となった。

【開催日 24年1月13日】

### 1、販売価格 税込み 【子牛】

品 種	性	今 回 分						前 回 分			Kg単価 増減	
		頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均日令	平均体重	Kg単価	頭数	平均価格		Kg単価
肉専用種	雄											
	去											
	雌	1	126,000	126,000	126,000	328	301	419				
	【小計】	1	126,000	126,000	126,000	328	301	419				
黒毛和種	雄											
	去	290	714,000	105,000	472,623	297	311	1,519	315	496,033	1,619	-100
	雌	231	744,450	122,850	355,877	311	286	1,246	229	380,737	1,368	-122
	【小計】	521	744,450	105,000	420,861	303	300	1,404	544	447,499	1,520	-116
主		16	583,800	197,400	398,409	302	292	1,365	15	368,130	1,295	70

・黒毛和種の取引頭数は521頭で、前回より去勢25頭減、雌2頭増、全体で23頭減となった。  
 ・黒毛和種の平均価格は421千円で、前回より去勢23千円安、雌25千安、全体で27千円安となった。

### 2、主な種雄牛の販売価格 税込み 【子牛】

名 号	去 勢					雌					合 計				
	頭数	平均価格	体重	単価	日令	頭数	平均価格	体重	単価	日令	頭数	平均価格	単価	日令	割合(%)
第1花国	136	486,768	310	1,569	297	113	362,891	291	1,247	310	249	430,551	1,428	303	47.8
北平安	23	444,241	313	1,420	300	18	339,500	277	1,226	315	41	398,257	1,341	307	7.9
第2花国	7	394,050	280	1,408	289	11	317,768	276	1,153	302	18	347,433	1,253	297	3.5
第2平茂勝	14	460,500	307	1,500	304	9	313,017	270	1,160	316	23	402,789	1,377	309	4.4
安茂勝	20	501,480	321	1,562	297	15	356,300	283	1,261	306	35	439,260	1,442	301	6.7
茂勝栄	13	436,558	309	1,413	307	10	355,425	297	1,196	305	23	401,283	1,321	306	4.4
総合計	290	472,623	311	1,519	297	231	355,877	286	1,246	311	521	420,861	1,404	303	100.0

・最も取引頭数の多かった種雄牛は「第一花国」で47.8%、次いで「北平安」7.9%となった。  
 ・第一花国の平均価格は431千円で、前回に比べ26千円安となった。単価は1,428円で前回より113円安となった。

次回開催日は2月10日（金）です。



## 青森シャモロック鍋 無料試食会を開催しました!!



平成23年12月23日、弘前市の弘前公園において、弘前城築城400年祭エンディングセレモニーを開催した。その中で青森シャモロックの普及を図るため、青森シャモロック鍋のふるまいを行った。

当日は朝からの断続的な雪にも関わらず、ふるまい開始前からたくさんの来場者が並び、長蛇の列ができた。ふるまい開始とともに、用意された1000食は1時間ほどであったという間になくなり大盛況で終了した。また、実際に食した来場者からは、とても美味しいと好評だった。

公園内では他に、ホットアップルジュースのふるまいや、巨大アップルパイの販売などもあり、セレモニーのグランドフィナーレには築城500年に向け、弘前城をバックに500発の花火の打ち上げもあり大賑わいだった。最後に、ご協力を賜りました関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。

## 元気に開催！第9回モーモー母ちゃんの集い

畜産に携わる女性の仲間づくりを目的とした交流会「第9回モーモー母ちゃんの集い」を開催した。大雪のため交通事情が悪化し数名の欠席者を出したが、吉田佐柄子講師のコミュニティ作りに関する講演や、午後はそれぞれが持ち寄った出し物を披露する交流会が行われ、会場は楽しい雰囲気に包まれた。また、畜産経営での苦労話や宮城から参加した女性の震災の被害などについて話し合われ、昼食時には1分間スピーチで普段の日常で感じる思いの意見が発表された。会場の後方には情報提供の場として、関係業者のPRブースが設置された。

参加者は63名で、実行委員会の新屋敷委員長からは、来年7月に宮崎県で開催される全国モーモー母ちゃんの集いへ向け「みんなで行こう!」と参加を呼びかけた。



## 全国コントラクター等情報連絡会議開催される

歴史的な円高を背景に、輸入飼料価格は現状を維持しているものの、国際的には価格が高騰しており先行きは不透明さを増している。そのような中で、低コストで良質な完全混合飼料の安定供給を目指すTMRセンターの活動と、飼料収穫の効率化と高度化を目指すコントラクター活動状況について、平成24年1月31日全国の関係者が静岡県浜松市に集い研修会を実施したものである。現地研修は浜名酪農協のコントラクター・TMR活動についての取組、事例発表は北と南から一事例ずつあり、北代表として本県の上北から青森県のコントラクター事情と吹越台地飼料生産組合の活動について発表された。吹越の活動の中で既存の建設業者を上手く活用した飼料等の配送について注目をあび、南からは大分県からの事例発表がされ組織作りに関心が寄せられた。(全国飼料増産協議会主催)



## 平成23年度 地方特定品種全国推進会議

12月1日～2日、高知県で開催された地方特定品種の全国推進会議に出席した。農畜産業振興機構、全国肉用牛振興基金協会、地方特定品種である日本短角種、褐毛和種、無角和種の飼養県の関係者ら34名が集まり、現地視察と全体会議が行われた。

今年度の開催県である高知県は「土佐あかうし」と呼ばれる褐毛和種の産地であり、現地視察では土佐町の肉用牛繁殖預託施設や、約150頭の褐毛和種を飼養している一貫生産者の牛舎を見学した。全体会議では、各道県から地方特定品種の生産振興策や販売促進への取組について事例発表などが行われ、課題となっている生産基盤の拡大や消費拡大などについて意見交換がなされた。





## エコフィード先進地事例調査

先進的にエコフィード生産・利用に取り組んでいる長野県の信州eループ事業協同組合を訪問し、事例調査を実施した。当組合は長野県内の食品工場、飼料工場、養豚業者などが協力して設置した協同組合で、エコフィードの生産から養豚、商品のブランド化まで一貫した取り組みを行っており、エコフィードを給与した紅酔豚は地元で好評を博している。また全国に先駆けた新しい取り組みとして、消費者へ安全性をPRするため独自の飼料トレサビリティシステムを作成し展開。商品に記載されている10桁番号を入力すると、使用した食品残さの種類や養豚生産者データの追跡が出来る。調査結果をもとに、十和田地域エコフィード推進協議会でも検討を図る。

## 平成23年度獣医師研修会 開催

去る12月6日、(社)青森県畜産協会と(社)青森県獣医師会の共催で東北町の青森原燃テクノロジーセンターで、家畜衛生に関する知識・技術の向上を図るため獣医師研修会を開催した。

研修会は、畜産協会山崎憲久副会長の開会の挨拶のあと、酪農学園大学獣医学部教授 小岩政照氏が「子牛中耳炎の内視鏡診断・治療、乳熱の新しい予防法」をテーマに、また、(株)微生物化学研究所技術企画部部長 函城悦司氏が「全国のアカバネ病発生状況及びヒストフィルスソムニの有効性」をテーマにそれぞれ講演した。

小岩氏は、子牛の中耳炎について慢性化して廃用あるいは肺炎を併発して死亡する例が少ない現状を報告し、治療方法として耳道洗浄をすることや子牛に対する内視鏡検査の有効性等について講演。函城氏は、全国でのアカバネ病の発生状況を示し、特に近年発生した西日本での事例においてはワクチンの未接種が大きな原因であると強調した。また、青森県でのヘモフィルスワクチン接種率が他の都道府県と比べると低いことを挙げ、接種の推進を呼びかけた。会場では県内の獣医師や県・市町村・関係団体の担当者ら約60名が出席し、熱心に講演内容に聞き入っていた。



## あおもり堆きゅう肥品評会に係る審査会

12月5日、十和田市においてあおもり堆きゅう肥品評会に向けた審査会を開催した。

畜産農家、堆肥センターなどから集まった28点の出品堆肥について、審査員が外観、臭気、発芽試験の結果などをもとに審議し、土づくり系堆肥3点、肥料系堆肥3点の受賞が決定した。また、今年5回目を迎える品評会について、耕種農家へのPR手法や耕畜連携へ向けた取組みの強化を協議した。

受賞者は、3月22日に開催する堆きゅう肥品評会で発表する。

## アグリ・フード・ルネッサンス 開催される

1月27日、青森市で行われた青森県農業法人協会・日本政策金融公庫青森支店主催によるアグリ・フード・ルネッサンス(異業種交流会)に参加した。

農林水産業関係者、食品加工業・販売関係者ら約100名が集まった講演会では、農業ジャーナリストである青山浩子氏より「強い農業・食産業の実現のために～国産品の勝ち抜くポイント～」と題して、FTA締結状況を踏まえて取り組んでいる韓国の畜産振興策や、情報力を活かした農業生産、6次産業の先駆けとなった取組みなどの優良事例が紹介され、国内農業が生き残るための対策等について講演がなされた。続く交流会では、農産物や加工品の展示・試食コーナーが設けられ、企業などの積極的なPR活動が行われていた。



(青山講師)



# 畜産経営のための青色申告について

青色申告にはたくさんのメリットがあります。最大出45万円だった青色申告特別控除が、平成12年分の所得税（平成13年申告）から最大55万円に引き上げられ、貸借対照表を添付することにより正規の簿記、つまり複式簿記であれば最大55万円、簡易簿記で最大45万円を課税所得から差引くことができます。

ほかにも青色申告のメリットはあります。白色申告を、これを機会に青色申告に切り替えてみませんか？。また、青色申告している人も、55万円の控除が受けられるように複式簿記に挑戦してみましょう。

今回は簡単にできる記帳のコツ・申告のポイントについて指導します。

## 1. 青色申告のメリット

青色申告特別控除と並んで、青色申告のもう一つの大きなメリットが青色事業専従者給与です。ところが、青色申告をしていても妻の専従者給与を月額8万円にしている経営者が多いようです。なぜ、8万なのかというと月額8万円だと源泉所得税がかからないからです。（月額87,000円以上の場合源泉徴収が必要。）

しかし、この専従者給与の決め方は正しいか？

表—1 専従者給与額の改定と税額

(単位：万円)

	専従者給与96万円			専従者給与270万円			差
	事業主	専従者	計	事業主	専従者	計	
農業所得／給与収入	504	96	600	330	270	600	0
青色／給与控除（注）	10	65	75	10	99	109	—
所得金額	494	31	525	320	171	491	34
所得控除	130	38	168	130	38	168	0
課税所得金額	364	0	364	190	133	323	41
納税額	31.84	0	31.84	15.20	10.64	25.84	6

(注) 事業主は青色申告特別控除、専従者は給与所得控除。

試算では、農業所得が600万円の経営で、専従者給与が月額8万円、年額96万円の場合、年税額は32万円弱となります。これに対して、専従者給与を月額15万円、賞与を夏冬3ヵ月ずつの年270万円の場合、年税額は約15万円となり、専従者給与にかかる所得税と併せても26万円弱で、全体で6万円も少なくなります。さらに、この差は住民税にも影響します。

なお、この試算では青色申告特別控除を10万円としています。貸借対照表を添付しない場合は青色申告特別控除は10万円になります。

青色申告の最大のメリットは、実はこの「青色事業専従者給与」です。なぜなら(1)「累進税率」といって所得が高くなるほど税率がたかくなるため、専従者給与により家族内で所得を分散すると家族全体の所得に対する適用税率が下がること、(2)専従者が受取った専従者給与は給与所得の収入全体として扱われ、給与収入の大きさに応じて給与所得控除を受けるため課税所得が減る。

したがって、専従者給与として適正な金額を届け出るのが節税のポイントです。夫婦二人の経営の場合、妻の専従者給与の目安としては、事業主の農業所得（青色申告特別控除前）と同程度の額から、少なくともその半分の範囲におさまるように決めるのがコツです。賞与の額としては、夏冬3ヵ月分ずつ合計6ヵ月までが上限のようです。したがって、専従者給与の月額としては、専従者給与の年間の予定額を18で割って計算します。

源泉所得税の納期の特例との関連で、夏の賞与の支給時期は6月ではなく7月または8月とした方が、源泉所得税の資金繰りに与える影響が少なく有利です。

青色申告の専従者給与の増額は節税だけでなく妻や子の仕事の励みにもなりますので、まさに一石二鳥です。青色事業専従者に実際に支払うことが専従者給与の必要経費算入の要件となっていますので、帳簿上だけでなく、できるだけ預金口座振込で支払うようにします。

また、新たに専従者が増えた場合には、年の途中でも2カ月以内に税務署に届けばよいのですが、すでに今いる専従者の分について青色事業専従者給与として必要経費にするには、その年の3月15日までに届出しておく必要があります。なお、専従者給与の金額を変更した場合には、遅滞なく変更届出書を提出して下さい。

月額15万円の給料の場合、源泉所得税額は4,670円（扶養親族なし）となります。源泉所得税は給料から天引きして、翌月の10日に納めるのが原則です。ただし、「源泉所得税の納期の特例の承認に関する申請書兼納期の特例適用者に係る納期限の特例に関する届出書」を提出すれば、1～6月までの支払分を7月10日、7～12月までの支払分を翌年の1月20日までと、半年に1回の納付で済みます。



白色申告の方は早く青色申告に切替えましょう。

## 東日本大震災に係る肉用子牛生産者補給金制度の要件緩和特例措置の終了について

現在、肉用子牛生産者補給金制度では、東日本大震災に係る要件緩和の特例措置により、飼養開始月齢及び個体登録申込期限が「2月齢－1日」であるところが「5月齢－1日」へと延長されています。

このたび、この特例措置が平成24年3月12日をもって廃止されることとなりました。下記の例を参考にして、間違いのないよう個体登録を申し込んでいただくようお願いいたします。

### 登録申込期限の考え方

子牛の生年月日	登録申込期限	
例① 平成23年9月10日生	5ヶ月－1日 → 平成24年2月9日まで	OK
例② 平成23年10月10日生	5ヶ月－1日 → 平成24年3月9日まで	OK
例③ 平成23年10月15日生	5ヶ月－1日 → 平成24年3月14日まで	×
	平成24年3月12日まで	OK
例④ 平成23年11月10日生	5ヶ月－1日 → 平成24年4月9日まで	×
	平成24年3月12日まで	OK

以降「2月齢－1日」を越える申込は、全て平成24年3月12日が期限です。



# インフォメーション



## 畜産技術研修会を開催します

- 開催日時：平成24年2月22日（水）13：00～15：30
- 場 所：むつ来さまい館（むつ市田名部10-1）
- 演 題：「1年1産に向けての繁殖管理」
- 講 師：酪農学園大学獣医学部 教授 小岩 政照 氏

問合せ：家畜衛生課  
TEL 017-722-4331

## 畜産堆肥展示会 in 六戸を開催します

- 開催日：平成24年3月9日（金）～10日（土）9：00～15：00
  - 場 所：ヤンマー農機展示会場（六戸町大字折茂字沖山10-117）
- 県内の畜産農家、堆肥センターなどが生産する堆肥の展示、斡旋を行います。

## 第5回 あおもり堆きゅう肥品評会を開催します

- 開催日：平成24年3月22日（予定）
  - 場 所：青森市内
- 詳細は決まり次第、HPでご案内します。 <http://aomori.lin.gr.jp/>



土づくりフォーラム同時開催

ビルの上にいる牛が目印です。



### MAP



### 社団法人 青森県畜産協会

〒030-0822 青森県青森市中央二丁目1番15号（畜連ビル）

総務課 TEL(017)723-2523(代) 家畜衛生課 TEL(017)722-4331  
経営支援課 TEL(017)723-2775 価格安定課 TEL(017)718-3809

FAX (017)731-1196

URL <http://aomori.lin.gr.jp> E-mail [info@aomori.lin.gr.jp](mailto:info@aomori.lin.gr.jp)